

アマダイ通信NO. 103

(Tile fish network letter)

2014年 御嶽山噴火の秋に

知人・友人各位

娘と女子高で3年間同じクラスだった子が御嶽山の噴火で亡くなったという。3年間一緒だったし、本当に良い子で、苦しいという。左脚に噴石があたってえぐれて大量出血、意識が遠のく中、お母さんに電話して謝って、最期は寒いと言って亡くなったそう。クラスのみんながショックを受け、ツライという。

スマホの世界だから、リアルで、切なく、辛い。人の命のはかなさ、自然の前での人間の無力さをあらためて感じるが、そこに人間の傲慢さがないか？人間も自然の一部だということをお忘れず、自然を敬い、自然に逆らわず、精一杯、悔いなく、生きたい。合掌。

◎若かったあの頃、何も怖くなかった

お盆休み、東北大の博士課程で社会学を研究するお嬢さんから、インタビューを受ける。「東大闘争」で博士論文を書くという。あれから半世紀、我が青春は早や、学問的研究対象なのだ。寮で同期の、盛山東大文学部社会学科名誉教授の紹介だが、寮で一年下の東京天文台の教授だった小杉健郎君の娘さんだと言う。亡くなった父は民青だったんですと言いながら、民青流に「東大紛争」とは言わない。あれから半世紀、親世代もそろそろ歴史的和解と行きたい。民青系の諸君にも、同期会などに参加して欲しい。

どういう気持ちで闘ったのですか？🐟にとって東大闘争そのものも大事だが、ベトナム反戦闘争と同じように、資本主義体制の矛盾の表れとして真相を暴き、革命運動の一環として、革命の隊列を組織して行くことが大事だった。24時間革命のために！全てを革命のために！と、猪突猛進。

革命が出来ると思ったのですか？何年くらいで出来ると思ったのですか？更に突っ込んで来る。いつかは革命が成就すると思ってはいたが、何時、如何なる方法でと、具体的にイメージしていた訳ではない。まずは「べき論」だ。一握りの資本家階級と大多数の労働者階級に社会は分裂、対立し、格差と疎外が深まる。常に新たなる市場、フロンティアを求め、侵略と戦争を繰り返す、資本主義というシステムが許せない！結果よりも、何を為す「べき」か、それが青春。若かったあの頃、何も怖くなかった！

◎蓮子と花子

NHKの朝の連続ドラマ、「蓮子と花子」は色々な意味で面白かった。親と子の葛藤、息苦しさ、生き苦しさが増す時代に逆らい、己を貫き生きることの難しさ。その時、自分ならどうだったか？戦後民主主義の有り難さを感じる。東大新人会に集ったリベラルな先輩達の一人が宮本龍一こと、大陸浪人宮崎滔天の息子。高まる軍靴の音に逆らい、体を張って日中戦争終結のために奔走するが、いつか体制翼賛へ。戦後再びリベラルへ。

戦前を彷彿とさせかねない時節だからこそ、日中の交流を計り、互いの理解を深める必要がある。9月12日三鷹クラブ116回講演会で程栄華駐日中国大使に話して貰う。70名の

定員を超過、100名の会場に変更するも、満員御礼。現代の大陸浪人、●の前の寮委員長、緑の地球ネットワークの高見君の伝を頼っての程大使の招聘。この貴重な日中間の草の根のパイプを絶やしてはいけない。幸いこの夏の緑の地球ネットワークの黄土高原植樹ツアーは無事成立。程大使の講演会も満員で、●通信で宣伝する必要がなく、通信103号発行のタイミングを失う。次回117回講演会に合わせこの度、発行することに。

敗戦で花子と朝一、吉太郎、それぞれの戦争との関わり方とその総括は違っても、次の人生を精一杯生きようと、その先に一步を踏み出す。戦争反対を貫き、迫害され、息子純平を戦場で失った蓮子も立ち直り、平和運動の先頭に。

翻って、団塊世代の先頭で東大闘争、最後の「日本革命運動」を戦った●の「戦後」は、「戦争責任」は？ ●さんのせいで人生を変えた人間が沢山いるんですよ！と未だに「指弾」される。見通しの悪さは悪さとして、貧困や格差、人間性の疎外、戦争に反対、豊かで自由、平和で民主的な世界を実現したい、「一人は万人のために！万人は一人のために！」との、青春の原点により忠実に生きることが我が「総括」かと、「蓮子と花子」に思う。

◎原発のない夏

今年の夏も原発なしで乗り切れた。節電に努めた国民、再生エネルギーや自家発電を強化した発電事業者、持てる水力や火力の発電設備をフル稼働させた電力会社の社員の努力の賜物だ。朝日新聞で、元関西電力副社長までが「高レベル放射性廃棄物の最終処分地のめども立たないのに動かしたら、また高レベル廃棄物が出る。使用済み核燃料を積み重ねるんですか。どこに持って行くかや。放射能は何万年の話ですよ。子々孫々や。原子力はセキュリティにかこつけて隠し事が多すぎる。」と反対していた原発。原発なしの二夏を過ごしたのだから、もう原発は動かさない方がいいのではないだろうか？

動かしてもウランは70年しか持たないという。たった70年だけ、しかも日本中に人が住めなくなるような事故のリスクを犯し、廃棄物の最終処分も出来ないまま、原発を再稼働するのは止めた方が良くはないか？直近でも、除染で出た汚染土壌やらの廃棄物の中間貯蔵地を確保するのに3千億円使うという。簡単に3千億というが、税金だ。これだけのことに3千億円！損害賠償やら、廃炉やら、技術的目途もたないというのにこれから何万年も管理していかなければならない。放射性廃棄物の処理、諸々を含めれば途方もない金がつぎ込まれる。最終コストを計算出来ないというのも致命的だ。

バイオマスや風力、太陽光などの再生可能エネルギーの技術に磨きをかけ、世界中で役立てるのが、よくはないか？コスト高で安定性に欠けるとも言うが、トータルコストでは今でも原子力より安い。日本が優れた技術を持つ火力発電と組み合わせればいい。取り分け石炭は数百年は持つと言われ、日本が最高の技術を持つ。炭酸ガスの発生が問題とされるが、樹や藻などの植物に吸収させたり、水素と合成してメタンガスを作るなど、エネルギー源に出来ないか？バイオマス発電も、欲しい時に欲しいだけの電力が得られる。組み合わせの問題ではないか？原発も駄目、いずれ化石燃料も尽きるとなれば、太陽エネルギーを固定して利用する再生可能エネルギーに頼るしかない。広島、長崎、福島を身を以て体験した日本が率先して先んじ、世界に貢献すべきではないか？

◎書を携え、「ルノー」で風切って

秋晴れの週末、サイクリストが群をなし街を走る。気持良さそうだ。土曜日、プールで千 m 泳ぐ前に、月島のパパママサイクルに寄る。ママチャリや子供用のバイクだけで、スポーツバイクはない。午後、トリトンスクエアで自転車屋はないの？と案内嬢に聞くと、あるという。立派なスポーツバイク専門店には外装 21 段などのスポーツサイクルがズラリ。初心者やオフロード走るならタイヤの太いマウンテンバイクが、ベテランなら軽くて、小回りが利き、加速もいいタイヤの細いのがいいです！空気をしっかり入れれば、タイヤが細くても簡単にはパンクしません！値段も四万円前後からと手頃。勉強になる

取り敢えず、ホームセンター、ビバホームも覗こうとギアなしママチャリで豊洲へ。運河に架かる太鼓橋を渡るのがきつい。日本が世界の工場だった高度成長期、工場地帯の下町は工業用水大量汲み上げで地盤沈下。舳やらの小舟すら通すのが難しくなり、太鼓橋になった。太鼓腹と違い見た目はいい。たまに足腰に負荷をかけ、筋肉を目覚めさせるにはいいが、連続しての登り降りはきつい。少し遠出するくらいの街乗りなら、タウンバイクがいいです。ハンドルよりサドルが高いスポーツバイクは河原やサイクリングロードを走るのはいいけど、信号の多い街中では、首や肩、腰に負担がかかるし、部品も高いから、故障すると高くつくと、自転車売りの店員。フェラーリやローバー、ルノー等の「外車」が勢揃い。一度フェラーリに乗って見たかったが、街乗りにはこれがいいですとの店員の説明で納得、外装 6 段、14・2 キロの赤いルノーを買う。本体価格 3 万円弱、鍵、前籠、ライトも入れて 3 万 5 千円ほど。何倍かしたスキューバのウェットスーツの様に、不良在庫にしてはいけない。東京を自在に走ろう！街路樹の下のベンチで、川の土堤の芝生に寝そべり、湾岸の渚に腰下ろし、本を読もう。出来れば少年の頃のように、山深い森で木の切り株に腰掛け、小川に足浸し、せせらぎを BGM に、木漏れ陽で本を読もう！

日曜日、取り敢えず月島でプール。地下鉄で豊洲へ。ルノーを引き取り、豊洲図書館に。ママチャリでは座ったままでは登り切れない江東と中央の区境、晴海運河に架かる晴海大橋をギアチェンジして楽々渡る。豊洲まで一往復半、晴海大橋を二度渡る。一夜明け、スキーでも歩くゴルフでも、プールでも感じない、太股の張りを少し感じるのは、何時もは余り使わない筋肉を使ったということか？体を鍛え、東京の街を楽しもう！

◎黒革の手帳、帰る

飲み過ぎて松本清張ゆかりの？黒革の手帳を紛失、同行した営業先で頂いた名刺を 2 週間分無くする。同行営業した顧問先に「頂いた名刺を PDF でパソコンに送って頂けませんか？又打ち合わせのメモなどありましたら、一緒をお願いします！今日以降、同行営業の予定がありましたら、教えて下さい！」とお願いする羽目に。その日最後に打合せした先の社長秘書に電話するもみつからず、飲み屋でもみつからず。銀座一丁目で乗った有楽町線を豊洲まで乗り過ごし、月島まで引き返して、大江戸線で一駅、勝どきで降りたと前夜の行動をなぞり、地下鉄の忘れ物センターにも連絡するがみつからない。

やむ無く銀座へ行ったついでに三越へ。百貨店なのに文具売場はなく、近くの伊藤屋へ。お気に入りのアシュフォードの肌触りのいい黒革のシステム手帳を品定め。左頁に日付、曜日、時刻付き、右頁は罫線付きのメモ帳の週間ダイアリーは時節柄売り切れ。やむ無く日付は自分で書込む、時刻、右頁罫線付きのメモ帳の週間ダイアリーを買い、新しい黒革のシステム手帳を着せる。一晚寝て起きると、日付書込み、時刻印字の薄さが気になり、

どこかに在庫がある筈と東京駅大丸百貨店へ。大丸にも文具はなく、同居する東急ハンズへ。お気に入りの週間ダイアリーはない。諦め掛けて手帳の高橋の売場を探すと、一時間毎に見易く印字した使い勝手のいい週間ダイアリー搭載の手帳を見つけ、買う。好きな黒革の手帳ならぬ黒ビニール皮の手帳だが、使い勝手が第一。それでも黒革の手帳の感触が忘れられず、発売元に黒革のケースがないか電話する。ないとのことで諦める。

新幹線の背もたれの網袋に入れたまま新大阪から広島まで一人旅させたり、公衆電話ボックスに野宿させたりしても、いつも●の元に帰って来てくれた黒革の手帳だが、これが永久の別れか！それとも銀行員の女主人公が拾った黒革の手帳に、脱税用の隠し口座の記入があったことからドラマが始まり、それぞれの人生が思わぬ方向に急展開して行くように、●の黒革の手帳にも新たなドラマの展開があるのか？一週間音沙汰なしで黒革の手帳との再会を諦めていたが、警視庁の遺失物係から発見の通知。営業先の社長に会った後、飲み屋に行く前に、最寄の駅で手帳を開いて電話連絡、そのまま手帳を置いてきぼりに。おまけにそのこと自体を忘れていた。早速飯田橋の警視庁分室で貰い受け。

メモを失って無くした記憶と名刺が出て来て大助かりだが、高橋の A6？版の手帳の方が使い勝手がいいと知ってしまった以上、この黒革の手帳を今一度ポケットに入れて持ち歩く訳にはいかないが、革の感触は欲しい。ブックカバーがあるから、革の手帳カバーもある筈。日本橋の丸善へ。ブックカバーほど種類はないが、文庫本サイズの、名刺入れなどのポケットがついた手帳カバーがいくつかある。黒革に赤い糸で二重に札入れとチャック付きの小銭入れまで縫い付けたカバーを求める。安全・安心の日本とは言え、ポケットにお金を入れるのは止めよう。伊藤屋で買った黒革の手帳 3号とお帰りの 2号に、リリース登坂して貰うことがないようにしたい。

◎人と人、人と夢を結び、多重にお役立ち

広大福山出身の三鷹寮の先輩山根卓さん（S31年入寮）に紹介して頂き、先輩の故郷福山の消臭・殺菌の会社メディシント、月々の活動費と多少の成功報酬を頂く、営業顧問契約。色々な方から、営業先だけでなく、顧問先も紹介して頂けるのは嬉しい。ネットワーク活動にも精を出し、多少は人の役に立って、期待を裏切らないようにしたい。

早速石田社長を、市立病院の建替が報じられた竹内青梅市長（S39年入寮）やパレスホテルの小林会長（S40年入寮）に案内、大手設計事務所の大阪副支社長にも会う。これから設計する食品スーパーの二つの食品工場での採用を提案。一般的な殺菌剤次亜塩素の消毒薬に微量の塩酸を添加、弱酸性の消毒液を作り、建物に配管した塩ビ管で配液・噴霧するシステム。無毒で殺菌性に優れ、インフルエンザウィルスや O157、ノロウィルスなどに良く効く。エボラ出血熱ウィルスにも効かないか？扱い易く、維持費も 8割減、使用水量も少ない優れたシステム。そこを評価して頂き、再開発案件で透析病院がある、他の会社のカット野菜工場の設計もすると、新しい情報も頂く。こちらも協力をお願いする。

予て電源開発の井水利用専用水道を設置、水道料金を節約、水源を二重化することで事業継続性を高めることを提案するが、消臭・殺菌システムを必要とする病院、ホテル、食品スーパーや食品工場、飲食店などでは水も大量使用する。一つのプロジェクトで二重に役に立てる。食品関連なら、生協でも役に立ちそう。昨年まで日本生協連の専務理事をしていた中国語クラス同級生の矢野顧問と、赤坂で秋田名物キリタン鍋を囲み、協力要請。

◎ガンの「虜」にならない!・・ガン「患者」の旅友へ

自分のガンがどんなガンか知ってショックだったと思いますが、「ほとんど治癒する見込みなし」のステージⅢbの大腸ガンだった🐟でも、術後11年間、多少は人の役に立って!？人生を楽しんでいます。

ガンも今では不治の病ではありません、怖がる余り、ガンのことだけ考え、ガンの虜になるのは、ガンの思う壺です。あなたにもこれまで生きて来た人生があります。世界中旅した場所、旅したい場所があります。放射線や抗がん剤の治療で、これまでと全く同じとは行かないかも知れませんが、出来るだけこれまでと同じように生きて、人生を楽しみましょう。それが免疫力を高める一番いい方法です。

ステージⅢbで「ほとんど治癒する見込みなし」の大腸ガンと知らなかった🐟は、ブッシュが夜毎イラクで「花火」を打上げ始めた3月に手術、5月の連休に手術前から申込んでいたスペインツアーを娘と楽しみ、夏休みにも海外旅行を楽しむ。余命半年と思っていた主治医は、月に一回一週間、5ヶ月続く抗がん剤治療を、5月の連休明けからに延ばしてくれる。冥土への土産をプレゼントしてくれたのでしょうか。

暢気な🐟は、何も知らぬままお腹と大腸を30センチ切っても、岩波新書でステージⅢbの大腸ガンは「ほとんど治癒する見込みなし」と知ってから、昨日と変わらぬ今日の自分があるのだから、今日と同じ明日がある筈と、全く気にせず、3年で抗がん剤から解放され、10年で年に一度の内視鏡と四半期に一度の血液検査と問診からも解放され、完全に主治医の予想を裏切ってしまいました。

人間いつかは死ぬんだから、死ぬこと自体は問題ではなく、如何に生きるか、つまり生を終えるかが問題です。幸いガンはガンと宣告されても、今日、明日に死ぬことはありません。生きている間やりたいことをやる。放射線治療や抗がん剤は体に辛いかも知れませんが、出来れば前向きに、多少は人の役にも立って、今ある生活、限りある人生を楽しみましょう。役に立つかどうか分かりませんが、「🐟のガン闘病記」をメールしましょう!

◆メールありがとうございます。仕事は休んで31日から放射線治療を毎日20回、9月から抗がん剤2種類をする事になりました。私のガンは進行性のたちの悪いガンなので再発、転移しないように治療しないとイケません。抗がん剤は6ヶ月なので3月まで治療します。ネットで調べて怖くなりましたが初期でみつけてラッキーと思っています。

🐟のモンゴル紀行 I (クラブツーリズム、週末気軽にモンゴル、2014.05.02 ~05)

「モンゴルを知るための65章」を読み終え、同じ明石出版のモンゴル本2冊目もあと少し。年間降水量200mmのモンゴルは文句なしの青空か!最高18°、最低-5°Cが今頃の気温。この厳しい気候が農耕ではなく、遊牧生活を数千年間モンゴルの民に選択させて来た。一見生産性の低い遊牧の民モンゴルが、何故生産性の高い、豊かな中原の穀作地帯を支配し、更にはユーラシア大陸全域に版図を広げ、並ぶ者なき世界帝国を築き得たのか?栄枯盛衰は人の世の常とは言え、今や中国領の内モンゴルとモンゴル共和国に小さく引き裂かれてしまった蒙古。中国領の内モンゴルでは近代化の名の下に、無理矢理農耕が進められ、今は砂漠化が進む。「共産化」したかつての世界帝国は、冷戦体制の崩壊と共にソ連共産党の轡を逃れて、どこへ行く?その現実を駆け足で見てください!

成田 2 時過ぎのフライトなので、NHK の朝の連続ドラマを見ながら荷造り、スーパーのマルエツに買い物。ダウンジャケットとモンゴルへ里帰りの!?カシミアのカーディガンも入れると、新しく買った小振りのスーツケースでは間に合わず。

これが人生最後の牛井かもと、勝どき駅前の松屋で頬張る内に、血圧の薬を持たなかったことに気づく。大丈夫と思っても、異国で脳梗塞起こしちゃ！とタクシー拾い U ターン。上野からスカイライナー。20 分遅れ、最後の 1 人で近ツリのカウンター。長蛇の列のチケットカウンターに並び、出張用の軽いパソコンを持ったのに、最新データの入った USB メモリを忘れたことに気付く。折返し便の到着が遅れ、モンゴル AIR の出発は二時間遅れ。

① 肉より乳

2 時間遅れで 5 時近くに成田を離陸したモンゴル AIR 機は通路の両側に 3 列のシートが並ぶ小型機。通路側に座った🍷の横に、沢山荷物を持ち込み、免税品の袋をあちこちの棚に押し込もうとする娘二人。流暢な日本語を操るので一人はジャパニーズかと思ったらモンゴリアン。秋田の国際教養大に 3 ヶ月の短期留学していたというので盛り上げる。安全・安心・便利で豊かな日本が気に入って、渋谷の日本経済大学の大学院に再入学、2 年半の過程を終えて帰国するという。もう一人の娘は日本に来て一年半、一時帰国だという。ファミリーマートとレストランで稼いだアルバイト代で、免税店で日本の化粧品を抱え切れないほど、お土産に買ったと言う。

機内のビールはメードインジャーマン。親切に 2 本もくれる。顔に欲しいと書いてあったか？日本酒の用意はなく、ビーフの機内食と一緒に白ワインを一杯。ウランバートルに近づくと気温 -3°、雪との現地情報。すっかり垢抜けし、東京の春のモードのモンゴル娘は嘘っそう！という顔。

氷点下 3°のチンギスハーン空港に降り立つ。気流が悪く左右に機体を揺らしながらも無事着陸。長く誘導路を走った割には小さなターミナルに、ボーディングブリッジから入るが寒い。スーツケースを受け取るとダウンジャケットを取り出し羽織る。年寄夫婦、親子連れ、総勢 16 人。小雪がちらつき、うっすらと雪化粧した夜道を 30 分ほど走り、フロントの全員が日本語を話せるというホテル FLOWER 着。機内で見た他の日本人ツアー客も一緒だ。ホテルのレストランでサラダとローストビーフの遅い夕食。地ビールを頼むがウエートレスに通じない。仕事を終えて食事中だった、他の日本人グループの現地ガイドが見兼ねて間に入り、喉を潤す。アルコール分 4.8%、味はまずまずだが、肴のビーフが硬い。遊牧の民にとって、牛は肉より乳なのかも知れない。肉牛を飼うのではなく、乳の出が悪くなった乳用牛を食用に回すのだろう。設備は古いが、バスタブにお湯を一杯張り、ゆったりしたツインの部屋に一人寝る。

② こうとしか生きられない人生がある

時差 1 時間、昨夜は 12 時くらいに寝たのだが、異国の明るい太陽に、6 時前に目覚める。標高 1300m のウランバートルを取り巻くなだらかな山々もうっすら雪化粧。近くの山は山頂までびっしり家が建ち、山肌が見えない。15 年ほど前に発行されたにわか勉強の教本にはモンゴルの総人口 260 万人の内百万人が首都ウランバートルに住むとあるが、現地女性ガイドのトンガによれば、現在は総人口 290 万人の内 160 万人が首都に住むという。

首都への急激な人口集中が進めば、当然建築需要も旺盛だ。トンガによれば現在の空港より遠くなるが第2空港も計画されているという。今は大きい飛行機を飛ばせないで、日航も全日空も飛んでいないが、新空港が出来ると飛ぶのではないかとのこと。顧問先が施工中の高井戸の清掃工場の解体工事で、工場をスッポリ巨大テントで覆うが、日本のODAで造る新空港のターミナルビルもそれで覆うと言う提案があり、帰ったらJAICAの課長と会うことになっている。計画の裏付けが取れた格好だ。トンガはモンゴルの橋や道路など、インフラの多くが、日本のODAで造られていると感謝する。「情けは人のためならず」だが、感謝されて悪い気はしない。新空港のターミナルビルが顧問先の巨大テント工法を利用、安価に出来ると嬉しい。

陽が登り、人の活動が再開されると建ち並ぶ煙突からモクモクと白や灰の煙が吐き出され、見る間に抜けるような青空が霞む。この国のエネルギー源、外貨獲得源でもある石炭のなせるわざか？その石炭が中国の鉄鋼バブルの崩壊で思うように売れず困っている。販路がロシアと中国に限られるのも悩みの種だろう。日本がお手伝いできる可能性がある。車が動き出すと空の汚れはもっと酷くなるのだろうか？交通渋滞も相当なものだ。街を走る車はトヨタ、ホンダ、日産と圧倒的に日本車が多く、スバル、三菱、マツダ、スズキも。他に韓国の現代を良く見掛ける。トンガは中古車ばかりというが、ピカピカの車も多い。

朝食は夜と同じホテルのレストランのブッフエ。肉と乳製品主体で、ソーセージやサラミは美味しいが、牛肉は今朝も固い。野菜がトマトとキュウリ、レタス、ほうれん草、果物はリンゴとブドウと、生の野菜と果物は少ない。国内で出来る野菜は人参とジャガイモくらいとあれば、致し方ないか。それに缶詰めの果物が黄桃とパイナップル、さくらんぼ、珍しいことに苺の缶詰まである。海のないモンゴルでは魚は食べない。川魚も水を神聖視するので食べない。こうとしか生きられない人生がある

2日目は8時50分ロビー集合、9時出発で観光に。てんこ盛り観光、強行軍のトラピクスと違ってゆったりスケジュールだ。ウランバートルにはタクシーが少ないが、タクシーは沢山いるとトンガちゃんが朝一番に謎々。確かにそれとわかるタクシーは少ないが、自家用車で営業する白タクが多いのだという。モンゴル仏教ラマ教（チベット仏教）のツァム祭典（仮面舞踏）が行われて来たチョイジンラマ寺院博物館に行くが、寺にアクシデントがあったということで、中に入れてくれない。明日に回して、王様にして宗教界の最高指導者でもある第8代活仏の宮殿だったボグドホーン宮殿博物館へ。清朝支配下の一王国に過ぎなかったからか？冬の宮殿、別荘だったとは言え、小振りだ。

◎サラ・オレイン、テレ朝「関ジャニの仕分け」で連勝中

5月24日（土）、テレビ朝日「関ジャニの仕分け∞」のタイトルは「May J.を破った新星サラ・オレインの実力は本物か？カラオケ2番勝負」。ものすごいプレッシャーを跳ね除け、なんと三鷹寮の歌姫、2009年のシドニー大学からの交換留学生（専攻は言語学）サラ・オレインがブロードウェイの歌手と「アナと雪の女王」のLet It Goで対決し、勝利。その後映画海猿の主題歌を歌ったシェネル本人とも彼女の持ち曲での勝負で勝つ。かつて🐻がサラを紹介した、トキコプランニング社長の徳田さんからメール。

加藤登紀子スタッフ徳田です。最近サラさんテレビ番組で拝見しました、人気がありますね。今度改めて登紀子さんとも再会しなにかできれば良いですね。6月3日夜8時～ト

キコズバーというインターネット上のイベントをうちの事務所(登紀子のリハーサル室)で開催します。ゲスト森山良子さんです。いつも飲み仲間 10 人ほどお誘いし、登紀子の部屋に遊びに来て頂いております。もしご都合よろしければ、サラさんと遊びに来て下さいませ。 トキコプランニング 徳田修作

サラはその後に関ジャニの仕分けで勝ち続け、9月20日(土)も勝利。以下はサラからの最新メール。皆さんもサラの妙なる歌声を楽しみ、共に応援して頂ければと思います。

先日の関ジャニの仕分けでは気持ちよく歌うことができ、テレビ番組上歴代1位の点数もとることができ、びっくりしていますが嬉しいです。9月24日にはついにセカンド・アルバム「SARAH」が発売され、発売記念ライブでアイスショーで共演させて頂いた安藤美姫さんがいらして下さいました。テレビとメディアにも取り上げられました：
<http://www.sarahlainn.net/news/media/sarah-2.html>

今回は色々な形で自分を表現ができたと思います。作詞(英語・日本語・イタリア語)、ヴァイオリン演奏、また、自分の書いた曲が三菱商事の社会貢献活動の一環である障害者スポーツ支援のテーマソングになりました。是非、アルバムを聴いて頂ければ幸せです。御陰さまで初日で1万枚売れたとのことでした。

今は主にアルバムのプロモ活動をしております。YouTubeなどでテレビ出演のリンクがまだいくつか残っているみたいなので(これは違法なため、いずれ消えます)よかったらご覧下さい：日テレ PON!安藤美姫さんと出演 <http://m.youtube.com/watch?v=4gKeSHgyUy4>

10月20日にはNHKのMusic Japanに出演します。他にもNHKに出させて頂くことになりましたので、是非チェックしてみて下さい。音楽活動をメインにしていますが、アカデミックな面もけっして忘れてたくありませんね。またコンサートなどで干場さんをはじめ、皆様にお会いできるのを楽しみにしております。これからも色々なフィールドで頑張りたいと思います。サラ・オレイン Sarah Àlainn <http://www.sarahlainn.net/>

◎落語家が語る「東大生向きな職業」

・・・東大三鷹クラブ第117回定例懇談会のご案内

「東大生向き」な職業とは何でしょうか。官僚、医師、弁護士、政治家、大企業のビジネスパーソン・・・今も昔も太宗を占めるのはそうした職業ではないでしょうか。今回は、本人曰く「東大生に最も向かない職業」に就かれた、春風亭昇吉さんより話して頂きます。そう、お名前からご賢察の通り、昇吉さん(本名國枝明宏、平成15年入寮)はプロの落語家です。東大生が落語家になるのは史上初めてだそうです、「東大出身落語家」として斯界内外を問わず、彼の活動に注目が寄せられています。

昇吉さんは大学時代に全日本学生落語選手権・策伝大賞で優勝し、大学卒業時には東大の総長賞にも輝きました。経済学部(岡崎哲二ゼミ)を卒業後、「笑点」や新作落語の旗手として高名な春風亭昇太師匠に弟子入りを許され、厳しい修行時代を経て二つ目に昇進。現在は高座のみに留まらず、気象予報士やテレビ番組の司会等、広範に活動を展開されています。落語家を志してから近年の活躍は、著書「東大生に最も向かない職業(2013年、祥伝社)」に詳しいので、お手に取ってご一読頂ければ幸甚です。

落語に限らず、こと芸事の修練は、一意専心、一切の脇目も振らずに芸を磨き上げることを尊ぶ考えが依然として強く、高座のみに留まらない噺家の活躍を「芸に身が入っている

ない」と批判する向きもあります。一方で、落語人気近年低迷の途を辿っているのは否定し難い事実であり、そうした趨勢を踏まえ、昇吉さんは落語界全体を振興すべく、「芸の肥やし」として高座やテレビ以外にも、経済学部で専攻した産業集積論を活かしたビジネスへの参画、NPOでのボランティア等と、従来の落語家観を打ち破るべく精力的に様々な場所で自らの価値を問うています。また、日本舞踊の修行、古典落語の修練、新作落語の創作といった落語家たる者の「必修科目」も疎かにせず、古典落語「明烏」の時代考証など、東大卒らしいユニークな取り組みも含め、先人が磨き上げた江戸落語の伝統を大切にされています。そうした積み重ねの成果の一つとして、本年7月の国立演芸場での独演会も大変な盛況を以て迎えられました。

天下国家、経世済民を論じてこそ東大卒、エリートの責務という気概も大切ですが、昇吉さんの型破りな活躍から、伝統文化の担い手として21世紀に相応しい振興を企図、実現するのも、「東大生に向いている職業」の一つかと思わされます。普段は中々窺い知ることの出来ない落語界の興味深い話題を基軸に、落語も演じて頂きます。今回の懇談会が伝統芸能、そこにおける「東大卒」の在り方について、新たな時代の胎動を予感させる貴重な機会になればと期待しております。

大学時代から昇吉さんのご活躍を最も間近に拝見している者の一人として、僭越ながらこの度ご紹介を申し上げます。諸先輩方を差し置いて、拙文にてお目汚しを致しました失礼をお詫び申し上げます。(H16年入寮 NPO法人「二枚目の名刺」永田達哉)

日 時：平成26年11月6日(水) 18時30分～21時

場 所：学士会館本館302号室(千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931)

会 費：5000円(会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)

定 員：50名(先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません)

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

二次会：別途 近くの中国料理店 SANKOUEN で(講師参加)行います。

◎7・25新しい交流と出会いの場創り準備会

東大三鷹寮の同窓会、東大三鷹クラブ結成時からの懸案の、会員の子弟を含めた若い諸君の出会いと交流の場を創ろうという構想を実現出来ないかと、S42年入寮の中村英君、S43年入寮の勝部日出男君と先日語らっていた所、95年入寮の山本篤君(D e N A)、海外駐在の久保啓行君、横田和彦君から相次いでメールを頂く。

横田君は外資の化学会社に勤め、フランスで幸せな家庭を営む。🍷が彼と大阪で飲む時に、軽い乗りで三鷹寮同期の高見君の主宰する中国黄土高原緑化NPO法人「緑の地球ネットワーク」の事務局員で、寮同期で柏崎市長の会田君の御嬢さんを、新大阪駅の美々卯に誘ってうどんすきをご馳走しなければ、今頃まだ独身でいたかも知れません。

若い諸君もそろそろ、昔の仲間がどうしているか気になるが、まだ仕事も忙しく中々自分の思うように時間もつけれない。三鷹クラブの従来の活動とは一味違った交流と出会いの場、久し振りに再会して旧交を温め、まだ独身の諸君には出会いの場ともなる仕組みを、OBの子弟にまで輪を拡げて創り、文Iの弁護士から理IIIの医師まで、総合大学の寮ならではのソリューションの揃ったネットワークを活かしていければと思う。

その準備会を、暑気払いを兼ね、原宿の勝部邸で、7月25日（金）7時より開催。勝部君と奥様に感謝！参加者は、

山本 篤（1995・理Ⅱ・広島大学付属）、國枝 明弘（2003・文Ⅱ・岡山城東）、永田 達哉（2004・理Ⅰ・浜松北）、岡本 和也（2006・理Ⅰ・岡崎）、石田 翔太郎（2010・理Ⅰ・尾道北）、伊藤 拓也〔楊 楊〕（2010・理Ⅱ・清教学園）、星川 昂平（2010・理Ⅱ・秋田）、光頼 幹（2010・理Ⅰ・膳所）、兼子 健太郎（2011・理Ⅰ・下関西）、中野 克哉（2011・理Ⅰ・鶴岡南）、小野寺 桃子（2012・理Ⅰ・宮城第一）、佐々木 一（2012・理Ⅰ・佐賀西）、庄司 惟（2012・理Ⅰ・聖ウルスラ学院英智）、大林 尚央（2012・文Ⅱ・高崎）、山原 達希（2013・文Ⅰ・灘）、Tews Tessa Karina（東京大学大学院 工学系研究科システム創成学専攻 認知システム工学研究室・ハンブルグ）、青山 希望（東京芸術大学 美術学部デザイン科・浦和明の星）、干場 革治（1966・文Ⅰ・能代）、中村 英（1967・文Ⅲ・広島大学付属）、勝部 日出男（1968・文Ⅰ・米子東）

◎ミュンヘンから・・若い寮友と

8月末、勝部邸のパーティに参加の國枝明弘君こと二つ目の落語家、春風亭昇吉君を囲み久し振りに事務所でコンパ。若いOB5人と盛り上がり、昇吉君に次々回の講演をお願い。

前後して、ドイツはミュンヘンから出張の、95年入寮の富士通の久保君から連絡。宿泊先の汐留ロイヤルパークホテルで会う。日本で結婚したドイツ女性との間に3人の子供をもうけ、奥さんの国の方が暮らし易い、仕事も順調で、かつての寮の仲間達が懐かしい、横のつながりが欲しいという。同窓会の東大三鷹クラブに入るということで、入会金兼終身会費1万円を預かり、若い諸君の名簿をメール、分かる限りで補充して貰い、次回帰国の時は盛大に飲み会をすることに。後でホテルに同窓会名簿を届ける。三鷹クラブの老青の連携を実現、ソーシャルネットワークとして発展させ、社会的にも貢献出来ると嬉しい。

◎終わりに

程栄華駐日中国大使の講演会が早々と満員御礼となり、通信での告知の必要がなくなって一号飛ばした分、いつもより長くなってしまいました。読了ありがとうございます。

東大三鷹寮が廃寮となり、再スタートの「東大三鷹国際学生宿舎」の同窓生も一緒の同窓会にと、「東大三鷹クラブ」と、「寮」の一文字を抜き、ネオン街のお店と間違えられかねない名称の同窓会ですが、ようやく「宿舎生」OBの参加もみられるようになりました。

結成から20余年、旧制高校以来の自治「寮」廃寮の契機ともなり、先輩諸兄の努力を受け継ぎ、宿舎生世代への橋渡し役ともなった「全共闘」世代の通信としては、足腰の立つ内に宿舎生世代へバトンを引き継ぎたいものです。そして「国際化」を目指す母校の留学生の寝床でもあるが、「一つ釜の飯」を喰ったとまでは言えない関係を、「宿舎」から限りなく「寮」での関係に近い、若者の切磋琢磨の場としての三鷹寮でのグローバルなネットワークの形成を通じて、豊かで平和な世界の構築に多少とも貢献出来ればと思います。

秋風が吹くと、白いゲレンデが恋しくなります。土曜日、出来れば毎週でも、日帰りでも水上の奥の宝台樹に車を走らせられればと思います。同行の士を求めます！

お陰さまで20年近く、ネットワークの拠点、結節点としての通信事務所を維持することが出来ました。ありがとうございます。今後とも、宜しくお願い致します。再見！